

NEWS RELEASE

2026.06.24

「CO₂を食べる自販機」とCO₂吸収材を活用した「二酸化タイル」を導入！

プラス

園田駅のお客様休憩所「ステーション+」を アサヒ飲料と連携し環境に配慮した休憩所にリニューアルします

阪急電鉄株式会社では、園田駅2階改札内にある休憩所「ステーション+」のリニューアル工事を2026年7月1日(水)から実施します。本リニューアル工事にあわせて、同所に設置する自販機のうち1台にアサヒ飲料株式会社が展開する「CO₂を食べる自販機」を設置します。さらに自販機でCO₂を吸収した後のCO₂吸収材をアップサイクルした「二酸化タイル」*を床材として導入します。「CO₂を食べる自販機」とCO₂吸収材を活用した「二酸化タイル」との併設は国内初であり、当社の駅施設における「CO₂を食べる自販機」の導入は、箕面駅と宝塚駅に続く3例目となります。

当社では、全線カーボンニュートラル運行や鉄道・駅における省エネルギーの取組を進めております。今後はこうした取組に加えて、環境に配慮した施設整備を進めることで、脱炭素社会の実現に貢献してまいります。

*CO₂吸収材を含む原料を圧縮・硬化して製造するため、高温での加熱焼成工程を必要としません。同程度の厚みの焼成タイルと比較した場合、工場出荷までを対象としたCO₂排出量が少ない特長があり、脱炭素に貢献できると期待されています。



現在の園田駅の休憩所「ステーション+」

【リニューアルの概要】

- ・「CO₂を食べる自販機」の導入
- ・CO₂吸収材をアップサイクルした「二酸化タイル」を活用した床、内装の更新
- ・テーブル・椅子など仕器の更新

【工事期間】

2026年7月1日（水）～8月末

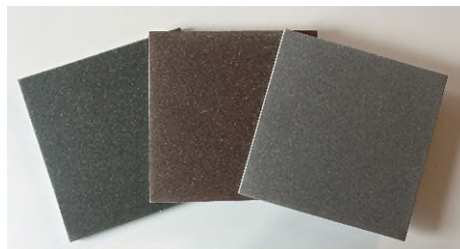
※工事期間中、「ステーション+」はご利用いただけませんが、給水機はご利用いただけます（コンコースに移設します）。ご不便をおかけいたしますが、ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

【「CO₂を食べる自販機」について】

自販機の中に搭載したCO₂吸収剤が大気中のCO₂を吸収します。1台当たりのCO₂年間吸収量は、最大でスギ（林齢56-60年）約20本分に相当します。全国で7,800台以上（2026年5月末時点）設置されており、阪急電鉄では、箕面駅に1台、そして宝塚駅に1台を設置しています。CO₂を食べる自販機でCO₂を吸収した後のCO₂吸収材は工業原料としてアップサイクルしてコンクリートや道路舗装など様々な形で活用されており、今回園田駅に設置する「二酸化タイル」もその1つです。



CO₂を食べる自販機



二酸化タイル

「CO₂を食べる自販機」についてはアサヒ飲料株式会社HPもご参照ください。

https://www.asahiinryo.co.jp/company/vending_machine/co2/

以上

（参考）脱炭素社会実現に向けた鉄道の環境優位性の理解促進について
一般社団法人日本民営鉄道協会、一般社団法人日本地下鉄協会とJRグループ各社では、日本のカーボンニュートラルの実現に向けて、相対的に低炭素な輸送モードである鉄道のさらなる利用促進（モーダルシフト）をめざすとともに、鉄道の環境優位性に対する社会的な理解促進のため、共通ロゴマークとスローガンを定め、鉄道業界一丸でPRに取り組んでいます。

〈詳細ページ〉 <https://www.mintetsu.or.jp/association/news/2023/22402.html>



【ニュースリリース配付先】 青灯クラブ、近畿電鉄記者クラブ、尼崎市政記者クラブ ほか